

がん患者ら24時間歩く

旧市民球場で

「生き抜く決意新たに」



手作りの横断幕を手に、イベントに参加した砂田さん(左)と渡辺さん(中)ら(旧広島市民球場で)

がん患者や家族らが24時間歩き続けることで交流を深めるチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in 広島」が22日、広島市中区の旧広島市民球場で始まった。

中国地方の患者団体や医療関係者ら約1000人が参加。午後1時、開会式の後、雨も降る中を歩いた参加者の中には2004、05年にがんの摘出手術を受け、07年には夫を隣臓

がんで失った尾道市高須町、介護ヘルパー、渡辺田鶴さん(53)と、07年に隣臓がんが見つかり、摘出手術を受けた同市向島町、保育士砂田和子さん(53)の姿があった。

インターネットの会員制サイトを通じて知り合い、互いの看病、闘病日記にコメントしあうとともに、一緒に散歩するなどしているという。イベントの実行委員でもある渡辺さんは「患者や家族が知り合う機会が少なく、患者は孤立しがち。来年も続けたい」と願い、「手術しても5年後の生存率は10%」と告げられている砂田さんは「皆と歩くことで生き抜く決意を新たにしたい」と話していた。

リレーフォーライフは、がん患者らが交代しながら歩き続けることで絆を深める催しで、1985年に米国で始まった。国内では06年に始まり、広島での開催は初めて。参加費などの収益は日本対がん協会に寄付される。